

番号	課名
A - 1	総務課

事務事業名	大学生等奨学資金貸付事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-4-9	生活の安定と自立への支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	能力があるにもかかわらず、経済的な理由によって大学等への修学が困難な方に対する支援。	
	関連施策名(施策コード)	V-12-25 I-2-3	教育環境の整備・充実 安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	教育の機会均等を図ること、有用な人材を育成することを目的に奨学資金を無利子で貸与しています。平成22年度に本制度を制定し、令和3年度には短期大学生と修業年限2年以上の専門学生も対象となりました。貸与額は、月額30,000円、入学準備金100,000円となっており、返還開始後、市内に居住をすることで返還猶予でき、加えて10年以内に5年連続して市内に居住することで、返還免除ができる規定を設けています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	奨学生申請者数	各年度の新規申請人数	人	7	5	19	16	10
②	奨学生決定人数(新規)	各年度の新規の決定	人	5	5	8	7	8
③	奨学生決定人数(継続)	各年度の継続の決定	人	11	10	15	14	13
④	市内居住による返還猶予・免除者の人数	各年度の返還猶予・免除の決定	人	10	9	8	12	17

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	返還免除額(千円)				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般		説明・算式・引用	市内に5年居住して免除になった方の総額			
	8,880	7,960	内容	人材育成貸付金	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源		4,520	0	1,540	0	2,360

事業対象	大学生(通信、専攻科、大学院及び医学過程を除く)・短大生・専門学生(修業年限2年以上)	今年度の成果	令和6年度においては、21名に総額7,960,000円を貸与することができました。また、返還対象者34名中15人が臼杵市内居住による返還猶予を行っており、臼杵市にとって将来有用な人材の育成及び副次的効果として、定住促進への貢献図ることができました。
------	---	--------	--

成果指標	指標名	奨学金貸与終了後の市内居住者率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	返還猶予・免除対象者になった率(過年度の返還終了者・免除者を除く)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	市内居住による返還猶予・免除の規定を設けることで、卒業後の臼杵市への定住促進を図るため。		%	45.45	34.62	33.33	42.86

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	経済的な理由で、能力があるにも関わらず大学等への進学を躊躇する学生に対して、就学の機会を与えられる有効な手段であり、近年は募集人数を上回る数の申請がありました。市内居住による返還猶予及び免除を設けていることで、定住促進の点でも副次的な効果も出ています。				

事業の問題・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>定住促進は制度の目的になっていないこと。</li> <li>5年居住後に全額免除を受け、転出するケースが見受けられること。</li> <li>年齢制限がないこと。</li> <li>日本学生支援機構の奨学金を使用しないケースが多いこと。</li> </ul> などの理由から、制度の目的、申請条件、返還猶予の条件などの見直しについて検討が必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 中	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 2	総務課

事務事業名	職員研修事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	-
	施策の課題(事務事業の実施目的)	あるべき姿である「行政のプロとして市民の視点で考え、行動する職員」を育成するため、様々な研修を計画的に受講できる体制を整備する
	関連施策名(施策コード)	-

事業内容(経緯)	大分県自治人材育成センター等が主催する庁外研修への参加に加え、庁内においても政策形成や次世代リーダーの育成を目的とした連続研修を行いました。また、各職場において年6回以上の人権研修を推進し、市職員の人権意識の向上を図っています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	派遣研修参加者数	自治人材育成センター等への派遣研修の参加者数	人	84	115	150	119	155
②	独自研修参加者数	臼杵市独自で行う研修の参加者数	人	1144	865	956	1767	864
③	人権職場研修	職場研修に参加した延べ参加者数	人	1993	1648	2112	1949	1870
④	必須研修の受講率	階層別研修の対象者のうち参加した割合	%	77	92	89	86	91

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1人当たり研修費用額					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	研修に係る事業費/一般職員数(年度当初時点)				
	2,637	2,636	内容	報償費・旅費・負担金等	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般会計			2195	2924	4775	6815	6793

事業対象	職員	今年度の成果	例年の各階層に対応する研修を実施したほか、今年度より各職員が希望する研修(大分県自治人材育成センター等)に積極的な派遣を行いました。(延べ155名)
------	----	--------	--

成果指標	指標名	職員に対する苦情件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	市民課(広聴)窓口寄せられる職員に対する苦情件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	市民サービスへと還元されるために、職員の資質向上として研修を行っているため。	件	9.00	6.00	6.00	7.00	2.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	研修後のアンケートより、各研修が職員の能力向上に関して一定の効果があると考えています。また、研修については、各職員が通常業務との調整を図りながら参加をしているため、より効率的な実施方法を考える必要があります。職員が研修を負担に感じるのではなく、自己研鑽のため目的をもって積極的に参加ができるよう、計画的な実施を図りたいと考えています。				

事業の問題・課題	一部の研修が内容については好評であったものの、休日や時間外の実施となったため、受講者から負担であったという声が多く聞かれました。研修への参加については、通常業務等との調整を必要とし職員にとって負担にもなり得るため、研修を受講しやすい環境づくり、個々の研修に対する意識向上を図りながら、研修を各職員が能力向上の機会というようなプラスイメージに捉えられるよう、人材育成基本方針の内容にそった計画的な研修の実施をしていきたいと考えています。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	やや遅延	貢献度 中	見直し 事業の効果はありますが、施策への貢献度が小さいため、貢献度に応じたものになるよう事務事業を見直します。

番号	課名
A - 3	財務経営課

事務事業名	市営駐車場運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	IV-10-16	商業の経営基盤強化及び中心市街地活性化
	施策の課題(事務事業の実施目的)	市街地に自動車で来訪する者の利便を図ること	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	市営駐車場として、下屋敷前駐車場(48台)と畳屋町駐車場(15台)の2箇所に設置し、時間貸駐車場として運営しています。料金収受については外部に委託しています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	利用台数		台	45,951	44,113	45,310	51,914	50,329
②	駐車料金		千円	3,802	3,327	4,076	5,119	4,538
③	経費の削減	事業費より算出	千円	4,396	4,401	4,465	5,016	4,967
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1台あたりのコスト				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	年間事業費÷年間利用台数(単位:円)			
	5,016	4,967	内容		数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
			財源			95.7	99.8	98.5	96.6	98.7	

事業対象	市街地へ来訪する市民や観光客など	今年度の成果	令和5年度は利用台数の増加に伴う駐車料金の増加が見られ、黒字転換していましたが、令和6年度は畳屋町駐車場のフェンス改修工事等も影響し、利用台数、駐車料金ともに令和5年度より減少しました。
------	------------------	--------	---

成果指標	指標名	利用台数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年間利用台数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	臼杵市中心部における活性化や利便性の向上を図るため、その利用台数を目安として指標を設定しました。		台	45,951	44,113	45,310	51,914

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	利用者数は令和2年度から令和4年度と比較すると増加傾向にあり、事業実施の目的は達成していると思われませんが、赤字状態のため、費用対効果については改善の余地があると思われれます。				

事業の問題・課題	赤字となる年度もあることから、今後の市営駐車場のあり方については、費用対効果等を十分に精査したうえで、検討が必要であると考えています。				
----------	---	--	--	--	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針		
	順調	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。	

番号	課名
A - 4	秘書・総合政策課

事務事業名	地域公共交通対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-37	公共交通の利便性の向上
	施策の課題(事務事業の実施目的)	市民の外出機会と安全な移動手段の確保	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	市民生活の利便性の確保や交通空白地域を解消することを目的に、コミュニティバス9路線の運行を行うとともに、地域住民の生活や学生の通学に欠かさない民間バス路線の維持を支援しています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	市内循環線乗車率	1便(片道)あたり平均乗車人数	人	3.35	3.51	3.61	3.86	3.53
②	市内循環線を除くコミュニティバス乗車率	1便(片道)あたり平均乗車人数	人	1.23	1.10	1.10	1.15	1.08
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	白三線利用者1人あたり補助額(単位:円/人)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	白三線補助額÷白三線利用者数で算出				
	46,011	51,188	内容	委託料、補助金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国、県補助金			894	984	1,139	801	920

事業対象	公共交通の利用者	今年度の成果	自ら交通手段を確保できない方の外出機会を保障するため、公共交通の維持に努めました。 【利用者数】コミュニティバス:13,673人 白三線:31,435人
------	----------	--------	---

成果指標	指標名	コミュニティバス利用者数(デマンドタクシー含む)	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	コミュニティバス全路線		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	市民の外出機会と安全な移動手段の確保を目的としているため	人/年	9,711	9,654	9,983	12,456	13,673

評価	有効性	効率性	評価の理由
	<b>B</b> A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	<b>C</b> A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	期待通りの乗車が得られていない路線もありますが、高齢化が進み、自家用車を手放した際の交通手段について不安を抱えている世帯・地域が多いため、地域の特性に合った公共交通の整備・維持が必要となります。利用者が減少していく中で、財政負担は増加傾向にあります。引き続き地域住民の方々と一緒にした路線見直しを行うことで、効率的な運行方法に改善していく必要があります。

事業の問題・課題	人口の減少や自家用車の普及により、利用者が年々減少しているなか、新型コロナウイルス感染症の影響のみならず、燃料高騰、物価上昇の影響によって路線バスの運行費用は増大しています。交通空白地帯の解消や利用者の生活の利便性維持という側面が強く、一概に費用対効果を追求することはできませんが、公共交通を確保しつつ、財政負担を抑制する仕組みづくりが必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	やや遅延	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 5	秘書・総合政策課

事務事業名	ふるさと納税促進事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VIII-22-54	市政運営を支える基盤の強化
	施策の課題(事務事業の実施目的)	ふるさと納税の推進により、自主財源の確保及び返礼品を通じた地場産業の活性化を図る。	
	関連施策名(施策コード)	IV-11-22	うすきブランドの強化と6次産業化の推進

事業内容(経緯)	ふるさと納税を頂いた方へ感謝の気持ちとして臼杵市の特産品をお届けすることで、市のPRや地域活性化を図るとともに、頂いた寄附の中から返礼品費や事務費を除いた金額を市の事業に活用し、魅力的なまちづくりに取り組んでいます。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	返礼品数	臼杵市へ寄附していただいた方へ進展する特産品の品目数	品目	325	412	448	483	484
②	PR回数	市報やイベントなどでPRした回数	回	9	7	12	9	20
③	ポータルサイトの数	寄附を受け付けるサイトの数	件	3	6	8	8	13
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	寄附受入額に対するコスト割合				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費/寄附受入額(%)			
	332,935	279,059	内容	ふるさと納税事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般			51.9%	50.9%	46.9%	53.0%	47.0%

事業対象	市外の寄附者及び市民	今年度の成果	頂いた寄附を活用し、更なる市の活性化・魅力向上に取り組むことができました。 令和6年度 寄附金額592,893千円、寄附件数24,633件 令和5年度 寄附金額628,514千円、寄附件数31,203件
------	------------	--------	---

成果指標	指標名	ふるさと納税申込件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	臼杵市へのふるさと納税寄附申込件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	ふるさと納税を通して臼杵市を応援してくれた数を数値化したもので、比較が容易であるため。		件	39,589	31,610	33,119	31,203

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	イベントを通じた市のPRにより”臼杵ファン”の獲得につながるとともに、いただいた寄附金は臼杵市のまちづくりの財源として産業促進へ繋がるため、有効な施策であると考えます。				

事業の問題・課題	新規寄附者はもちろんリピーターの獲得を目指し、返礼品、使い道、イベントなどのツールを最大限に活用し、引き続き市の魅力向上を図るとともに、臼杵ファンを増やしていくための効果的なPRの方法を検討する必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 6	秘書・総合政策課

事務事業名	高校生バス通学用定期券購入助成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市の将来を担う人材を市内の高校で育てること、また公共交通の維持、地域活性化を図ることを目的とします。	
	関連施策名(施策コード)	VI-17-37	公共交通の利便性の向上

事業内容(経緯)	市内の子どもたちが、できるだけ市内の高等学校に通うことができるよう、通学補助として購入した定期券の金額からその通用期間1ヶ月につき1万円を控除した額の全部を補助します。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	①	バス通学用定期券購入助成人数	1万円を超える金額の定期券/月の購入者数	人	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	②								
	③								
	④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	バス通学用定期券購入助成額					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11		説明・算式・引用	(1万円を超える金額の定期券/月-1万円/月)×12ヶ月				
	3,915	2,992	内容	高校生バス通学用定期券購入助成金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	地方債			3641	3071	3480	3915	2992

事業対象	バス通学用定期券購入助成者	今年度の成果	臼杵市の将来を担う人材を臼杵で育てるため、市内2つの高校に通う遠距離バス通学生に対し通学支援を行いました。 令和6年度助成人数:28人
------	---------------	--------	--

成果指標	指標名	野津地域から臼杵市内の高校に通学する生徒数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	各年度の野津中卒業者のうちの臼杵高校及び海洋科学学校への進学者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	臼杵市の将来を担う人材を市内の高校で育てることを目的としているため	人	9	9	13	14	4

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	野津地域から大分市内への通学費用と比べると大きな差がありましたが、助成により臼杵市内への通学費用の負担が大分市内への通学費用と同程度となりました。 また、各申請者に対してではなく、定期券販売業者への差額分を支払う形としているため事務の効率化が図られているとともに、臼三線や割後場線の利用にも繋がっており、路線の維持が効率的に図られています。

事業の問題・課題	R7年度からゾーン制運賃の導入により事業廃止
----------	------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	完了 今年度、事務事業が完了しました。

番号	課名
A - 7	秘書・総合政策課

事務事業名	夢応援教育ローン利子補給金事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	家庭の経済状況が子どもたちの学力に大きく影響を与えていると言われるなか、近年、教育費の負担軽減施策の拡充が求められています。	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	将来を担う人材を育てるとともに、子育て世代への手厚い支援により定住化を進めることを目的に、市と契約した金融機関から借り入れる教育ローン(融資限度額300万円、利子補給期間10年以内)にかかる利子を市が補給します。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	資格認定申請者数	申請者数(各年度)	人	16	22	19	15	14
②	広報回数	市報・HP、臼杵駅や市内高校、公共施設へのポスター掲示やチラシ配布、CATVによる広報	回	9	9	9	9	9
③	利子補給額	借入資金(限度額300万円)の年利2%まで利子補給、利子補給期間10年以内	千円	1,552	1,973	2,511	2,983	3,265
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	利子補給金額				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	月末残高(千円)×利子補給金率×1/12(ひと月分の計算式)			
	2,983	3,265	内容		コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源				1,552	1,973	2,511	2,983	3,265

事業対象	大学生、短期大学生、専門専修学校生の子どものために教育ローンを借り受ける市内居住の保護者	今年度の成果	令和6年度は、14名から申請があり、14名を資格認定しました。平成28年度から令和6年度までの累計認定者数は111名です。
------	--	--------	---

成果指標	指標名	借入認定者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	認定者数(累計)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	経済的な理由で進学を断念することがないよう保護者の負担軽減と人材育成を目的としているため	人	47.00	65.00	83.00	97.00	111.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	利子補給により、保護者の経済的負担が軽減され、子どもが十分な教育を受けることができます。しかし、例年申し込みが募集人数に満たないため、広報および相談体制の改善が求められます。				

事業の問題・課題	例年申し込みが募集人数に満たないため、広報および相談体制の改善が求められます。また、取扱金融機関が大分県信用組合野津支店のみであるため、臼杵地域の住民にとっては手続き上、不便であるといえます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 8	秘書・総合政策課

事務事業名	行政経営システム運営事業	新規・継続・単年	単年
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VIII-22-54	市政運営を支える基盤の強化
	施策の課題(事務事業の実施目的)	効率的・効果的で計画的な行政運営、市政への関心の向上	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	事務事業評価、施策評価、行財政活性化推進委員会、市民アンケートなどを活用し、施策及び事務事業のサービスを検証します。また、公共5カ年施設整備計画等の行財政活性化ツールや各課の運営計画等を、有効かつ効率的に実施できる行政経営システムを構築し、運用しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	市民アンケート回収率	有効回答数の割合(毎年2000通を郵送)	%	43.3	37.3	37.7	34.2	34.8
②	事務事業評価シート数	作成した事務事業評価シートの数	事業	142	136	133	135	122
③	行財政活性化推進委員会で評価した施策数	総合計画の施策評価対象の54施策のうち、行財政活性化推進委員会で評価を実施した施策の数	施策	0	20	19	15	0
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市民アンケート 1件当たりの費用(千円)				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計	説明・算式・引用	市民アンケートの回答件数/委託費含む総事業費				
	3,540	4,415	内容	委託費、通信運搬費、印刷製本費 他	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源		3.4	4.6	4.4	5.2	3.2

事業対象	市民・職員	今年度の成果	外部評価として実施した、市民アンケートの実施結果や施策評価の結果を職員間で共有し、予算編成や事業計画において、市民ニーズを意識して実施できるようにしています。
------	-------	--------	---

成果指標	指標名	市民満足度 平均点	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	市民アンケートの各施策の満足度(3点満点)の平均		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	市民アンケートなどを通じて、市民ニーズを意識しながら施策、事務事業を実施することにより、市民満足度平均点の向上を図ります。		点	2.00	2.05	2.03	2.03

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	行政評価を行い、事業内容等の公表、次年度以降の改善ができるようシステム化しているものの、構築から時間が経過し、取り組みが一部形骸化し、効果が限定的になっている部分があります。そのため実施にあたっては、分析等の一部専門性の高い部分のみ専門業者に委託して実施しており、効率的な運用に努めています。				

事業の問題・課題	外部評価を的確にとらえながら、施策や事務事業の内容の公表及び内容改善を図ることができるよう、システム化していますが、構築から時間が経過し、改善や事業の優先順位付けなどの機能が十分に発揮できていない部分があります。また、外部評価をより効果的に施策へ反映できるよう、行財政活性化推進委員会にて評価を行う施策の選定方法や回答数が減少している市民アンケートも見直しが必要です。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 9	秘書・総合政策課

事務事業名	旧野津高校跡地再活用事業	新規・継続・単年	新規
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	検証結果を踏まえた、庁内連携した検討体制による、“再活用の方針”に基づいた施設ごとの再活用方法の検討と決定。	
	関連施策名(施策コード)	II-5-10	地域内交流・地域間交流
		IV-11-19	農林業の経営基盤強化と担い手育成

事業内容(経緯)	県立野津高校跡地の再活用に向けて令和6年3月に作成した“再活用の方針”に基づき、施設ごとに再活用方法を決定し、その実現に向け取り組むもの。 (対象施設：普通教室棟、グラウンド、福祉実習棟、体育館及び柔剣道場) 全ての施設の再活用方法の決定、事業の実施に向け引き続き検討を行うもの。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	再活用検討委員会の開催	委員会の開催回数	回	-	-	-	19	32
②	試行的な開放の実施	開放の実施回数	回	-	-	-	-	3
③	臼杵市多世代交流館の整備(ハード)	整備率	%	-	-	-	-	100
④	臼杵市多世代交流館の整備(ソフト)	整備率	%	-	-	-	-	100

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	数値の推移(総合計画の期間内)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般							説明・算式・引用
	-	36,565	内容	工事費、委託料など	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源,合特債			-	-	-	-	

事業対象	今年度の成果	敷地内施設のうち、教室棟は“臼杵市多世代交流館”とすることとし整備を行った。グラウンドは甘太くんの広域選果場の建設用地として貸し付け。体育館及び柔剣道場は耐震診断を実施。
------	--------	---

成果指標	指標名	敷地内における再活用方法が決まった施設の割合(教室棟、グラウンド、福祉実習棟、体育館・柔剣道場)	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	再活用方法が決まった施設数/敷地内の施設数(4)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	全ての施設の再活用方法が決まれば、再活用検討事業は役割を終えるため	%	-	-	-	-	75

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い					

事業の問題・課題	福祉実習棟など未着手の施設の再活用方法の決定及び実現 グラウンドの再活用事業の実現、多世代交流館との相乗効果が上がるような取組みの実現 R7年度オープンの臼杵市多世代交流館の安定的な管理運営体制の構築
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調		・臼杵市多世代交流館の円滑な運営 ・福祉実習棟の活用方法の検討

番号	課名
A - 10	地域力創生課

事務事業名	地域振興協議会事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	II-5-10	地域内交流・地域間交流
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	少子高齢化や人口減少に伴う、地域活動の衰退や交流の希薄化に歯止めをかけるため、旧小学校区単位に「地域振興協議会」の設立を推進し、その活動を様々な面で支援しています。設立後は、地域活動の担い手確保や後継者の育成のほか、自主財源の確保などに取り組みます。	
	関連施策名 (施策コード)	II-5-10	地域内交流・地域間交流

事業内容 (経緯)	地域振興協議会は、地域の様々な活動団体を一つの組織と捉えたものであり、地域内の団体が世代や立場等の枠を超えて連携することで、それぞれの活動がさらに活性化し、地域の一体感や日常生活での安心感を作りあげることが目的としています。
--------------	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	地域振興懇談会、ブロック別連絡会の開催回数	懇談会年2回、ブロック別連絡会年6回(臼杵・野津)開催予定	回	0	0	4	14	8
②	協議会拠点施設の整備箇所数	専用の協議会拠点施設がある協議会数	箇所	16	16	16	16	16
③	助成金の交付金額	地域の活動内容に対しての助成金額	千円	4,789	7,121	9,933	9,520	11,206
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	指定管理料等 1地区当たりの費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	指定管理料・集落支援(連絡事務所含)事務委託料/18地区				
	139,416	266,745	内容	需要費、役員費、委託料他	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	地方債、一般財源			2,263	2,586	2,762	3,151	3,705

事業対象	市民	今年度の成果	新たな補助メニューとして、地域課題解決チャレンジ事業と地域共生推進事業を追加し、これまで以上に地域の自主性を重んじた活動助成を行うことができました。また、地域共生社会の実現をめざしたコミュニティ施設として、下北地区コミュニティセンターが完成しています。
------	----	--------	--

成果指標	指標名	自主財源確保事業取組み数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	臼杵市地域コミュニティ事業助成金を活用して自主財源確保事業を実施した協議会数		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定の理由	持続可能な地域活動をしていただくために、補助金に頼らない運営方法を探る必要があり、自主財源確保はその一つの重要な取組みであるといえるため。	箇所	1	2	2	2	2

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	高齢化率が40%を超える臼杵市の現状を考えると、地域力の維持向上や地域内のつながりの希薄化を解消するために、地域内の支え合い、助け合いが求められます。地域振興協議会という地域活動の場があることで、複数の地域団体が連携しながら地域活動に取り組むことができ、地域活動の充実や地域の活性化につながっています。				

事業の問題・課題	地域活動が活発化する一方で、地域活動を担う人材の育成や地域の自立に向けた自主財源の確保などが課題となっています。課題は地域ごとに異なるため、各地域との交流を通じ、解決策について地域とともに考えていく必要があります。各地域振興協議会が集まる地域振興懇談会やブロック別連絡会を開催して、地域活動の担い手の確保や後継者の育成など、共通する課題の共有を図りつつ、それぞれの実情に合わせた解決策を検討していきます。また、各拠点施設のコミュニティセンター化が進んだことから、地域と行政のさらなる協働による運営体制の構築を進めていきます。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化
施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			

番号	課名
A - 11	地域力創生課

事務事業名	移住定住対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	起業・就業の機会の創出による若者世代の定住促進、Uターン及び定住促進のサポート体制の受け皿不足、有効活用できる空き家の掘り起こしとマッチング対応の遅れ、効果的な「うすき暮らし」の情報発信	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3 II-5-10	安心して産み育てるための支援 地域内交流・地域間交流

事業内容(経緯)	流入人口及び定住人口の増加をめざし、福岡、東京など都市部における移住相談会では他課とも連携しながら幅広い移住相談対応を行いました。移住サイトでのハローワーク求人情報の掲載に加え、臼杵市ごと紹介サービス事業を始め、移住者の就職サポートを始めました。また、例年行っているオンライン移住イベントや移住後の市内交流ツアーや移住者交流会などを行い、多様な移住支援体制の充実を図りました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	移住相談会・フェア出展回数	都市部で開催される相談会、フェア等への年間も出展回数	回	10	6	15	7	5
②	移住希望者向けモニターツアーの参加者数	移住希望者向けモニターツアー参加者の累計人数	人	7	3	3	1	7
③	移住相談件数	移住定住総合窓口として、対応した相談件数	件	400	410	410	420	400
④	移住補助制度利用世帯数	移住補助制度を利用した世帯数	戸	104	106	102	114	88

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	補助制度利用1世帯あたりの事業費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(千円)/補助金利用件数(※世帯延べ数)				
	75,739	68,744	内容	定住促進事業補助金他	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	県費・単費・起債			584	647	671	606	705

事業対象	市民及び移住希望者	今年度の成果	田舎暮らしの本「住みたい田舎ベストランキング(人口3~5万人のまち)」において、シニア世代部門で第2位、子育て世代部門で4位を受賞し、臼杵市の魅力を全国に広くアピールすることができました。令和6年度移住者数:88世帯182人
------	-----------	--------	--

成果指標	指標名	移住者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	移住者居住支援事業申請において把握した年間移住者数(単年度)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	移住施策の効果を図る指標として、実際に臼杵市に移住した人数を設定するのが妥当と考えるため	人	231	226	211	246	182

評価	有効性	効率性	評価の理由
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	都市圏での移住相談会では対応職員を増やして、きめ細かい相談対応に努めました。またコロナ以前に開催していた移住モニターツアーを再開し、関係人口の増加を図りました。しかし、移住者数は目標値に達することができなかったため有効性及び効率性ともにB評価としました。今後は移住支援に加えて、広報にも力を入れ、臼杵を知るきっかけを増やしていきます。

事業の問題・課題	都市圏での移住相談会参加をはじめ、オンライン移住イベントや現地での移住体験ツアーなど、移住までのステップを段階的に踏めるような仕組みにより、関係人口創出につながりました。一方で、参加者の募集がなかなかうまくいかず、広報や民間の移住サイトの活用を見直す必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
A - 12	地域力創生課

事務事業名	地域おこし協力隊(一般隊員)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化が必要です。	
	関連施策名(施策コード)	II-5-10	地域内交流・地域間交流

事業内容(経緯)	人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図る国の制度です。臼杵市では平成26年度から採用を始め、令和6年度は4名が活動しました(有機隊員1名、一般隊員3名)。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	地域おこし協力隊受入れ人数	地域おこし協力隊(一般隊員)活動隊員数(単年)	人	6	4	4	3	4
②	地域と地域おこし協力隊とが協働で行った活動、催し件数	各隊員が関係した地域活動、定住促進・地域振興イベントの年間開催件数(単年)	件	57	80	18	60	60
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	地域おこし協力隊活動費(単位:千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	活動費(旅費+需用費+役員費+器具費)				
	3,615	2,184	内容	報償費以外、および募集に関する費用	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源など			1,315	1,107	1,163	1,591	1,011

事業対象	市民・地域・市役所	今年度の成果	臼杵の魅力発掘や情報発信により、市内外に向けて臼杵の地域資源やうすきでの暮らしの状況を周知しました。また、臼杵市内での地域振興イベントだけでなく、市外向けに発信する観光イベントでも活動を行いました。令和6年度活動隊員:有機農業担当1名、地域づくり事業担当2名、空き家バンク担当1名
------	-----------	--------	--

成果指標	指標名	定住した隊員数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	地域おこし協力隊員を卒業した者が臼杵市に定住した数(全隊員累計)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	起業補助金などを通じて、協力隊の定住を図ることが地域力の維持・強化につながるため	人	9	10	13	14	16

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	これまでになかった視点での地域資源を活かしたイベント企画や情報発信、地域団体の支援など、地域づくりに積極的に取り組んでおり、これらの活動が住民にとっても地域の魅力や良さを再発見することにつながっています。

事業の問題・課題	今後も引き続き、協力隊自身の定住につながるための支援はもちろん、募集段階から業務内容についての検討を綿密に行う必要があります。また、活動内容の更なる充実や退任後のスムーズな定着を図るとともに、隊員と地域、市それぞれによりメリットのある活動や支援をしていく必要があります。そのために、定住・起業のための支援策などを積極的に活用することで、各隊員にきめ細かなサポートを行い、最終的に地域の活性化につながるような体制を整備していきます。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 13	地域力創生課

事務事業名	空き家対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保
	施策の課題(事務事業の実施目的)	起業、就業の機会の創出による若者世代の定住促進、UJIターン及び定住促進のサポート体制の受け皿不足、有効活用できる空き家の掘り起こしとマッチング対応の遅れ、効果的な「うすき暮らし」の情報発信	
	関連施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進

事業内容(経緯)	空き家の有効活用を図りながら定住を促進する「臼杵市空き家バンク」を運営し、空き家を貸したい・売りたい人と空き家を借りたい・買いたい人のマッチングを行います。移住希望者及び市内居住者への空き家バンク制度の利用案内による空き家活用の促進や空き家バンク物件の改修に対する支援補助を行なうとともに、360度画像で内覧可能な「空き家バンクVRシステム」を活用して利用促進に努めています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	空き家バンク物件登録数	空き家の登録件数(累計)	件	304	354	392	429	468
②	空き家改修補助金利用件数	改修補助金の利用件数(累計)	件	90	121	139	156	164
③	空き家活用促進補助金利用件数	仲介手数料、家財処分費、成約奨励金の利用件数(累計)	件	201	280	326	390	430
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	空き家改修補助金及び空き家活用促進補助金利用者数1件あたりの事業費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(千円)÷補助金利用件数(※世帯延べ数)				
	15,133	11,138	内容	空き家活用・改修制度補助金事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国費・県費・単費・起債			112	119	64	229	232

事業対象	市民及び移住希望者	今年度の成果	利用可能な空き家の活用が進み、移住者の受入れ先になるとともに、市民の安全、快適な住環境整備を進めることができました。 【令和6年度】登録件数39件(累計468件) 成約件数35件(累計336件)
------	-----------	--------	--

成果指標	指標名	移住者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	移住者居住支援事業申請において把握した年間移住者数(単年度)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	移住施策の効果を図る指標として、実際に臼杵市に移住した人数を設定するのが妥当と考えるため。	人	231	226	211	246	182

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率が低い	登録件数等のほか、改修補助や活用促進補助の利用件数も増加しており、定住人口の増加につながっています。未だ活用できていない空き家も多いため、継続的に制度を周知することが必要です。空き家バンクの運営にあたっては、専門知識を有する宅地建物流通センターとの連携を図っていることから、登録件数、成約件数ともに増えており、効率的な運営ができています。

事業の問題・課題	個人の財産となる空き家等の建物について所有者の管理責任を第一義にとらえ、空き家活用の各種支援制度の周知を図り、空き家バンクの利用促進や、空き家の有効活用を図るための物件掘り起こしを推進するための体制強化が必要となっています。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 14	地域力創生課

事務事業名	新婚生活応援事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	起業、就業の機会の創出による若者世代の定住促進、UIターン及び定住促進のサポート体制の受け皿不足、有効活用できる空き家の掘り起こしとマッチング対応の遅れ、効果的な「うすき暮らし」の情報発信	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3 VI-18-41	安心して産み育てるための支援 快適な住環境の確保

事業内容(経緯)	人口減少、少子高齢化対策として、若年世代の定住世帯の増加を図るため、若年新婚世帯に対して、仲介手数料、引越費用、家賃の補助及び結婚祝品として商品券を贈呈しました。また、補助金の利用を促進するために、SNSや市報を活用し、周知を図りました。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	新婚生活応援補助金利用促進のためのPR回数	補助金利用を促進するために市報やSNS等でPRを行った回数	回	1	11	9	2	1
②	不動産会社等の民間企業への周知回数	民間企業へチラシ配布等で周知した回数	回	1	1	0	0	0
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1件あたりの事業費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(千円)/補助金利用件数(※世帯数)				
	10,032	11,424	内容	新婚生活応援補助金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国費・県費・単費・起債			235	205	228	401	672

事業対象	市内在住者	今年度の成果	17戸の新婚世帯から新婚生活応援補助金の交付申請があり、定住数の増加につながっています。(交付実績:17戸)
------	-------	--------	--

成果指標	指標名	新婚生活応援補助金申請者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	新婚世帯結婚祝品の交付申請数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	若年世帯の定住を図る指標として、臼杵で婚姻し、定住を誓約する人数を設定するのが妥当と考えるため	戸	17	25	36	25	17

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	初期費用や民間賃貸住宅の家賃補助を行うことで、若年世代の新婚生活の負担を軽減できています。利用促進にあたり、市報での広報をはじめ市民課や市民生活推進課、宿直など、婚姻届けを提出された際に補助制度の説明を行うなど、効率よく周知を行っています。

事業の問題・課題	補助制度について、市報で掲載した際には問い合わせが増加する傾向にあります。申請期限があるこの補助制度は定期的な情報発信が必要となるため、市報だけでなく、一層、若年層が目にとまりやすいSNSなどを利用した広報をする必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 15	防災危機管理課

事務事業名	防災カメラ機器更新事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備
	施策の課題(事務事業の実施目的)	既設の防災カメラ及び関係機器の更新の必要があります。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	災害時に洪水や津波による浸水が予想される箇所の状況を配信・記録するため、既存防災カメラ及び付帯機器の経年劣化に伴う機器更新を行うものです。令和2年度までに18箇所のカメラのデジタル化が完了し、新たに4箇所に追加設置したことにより合計22箇所のカメラを整備することができています。令和3年度以降は、22箇所のカメラ及び付帯機器の更新を行います。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	防災カメラ機器更新箇所数	各年度ごとの更新箇所数	箇所	0	0	2	2	2
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	カメラ1台あたりにかかる経費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	更新工事費/カメラ22台				
	6,806	7,953	内容	工事費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源				516	192	315	309

事業対象	臼杵市民	今年度の成果	市役所臼杵庁舎、新地に設置している2台の防災カメラ及び関係機器を更新しました。地域住民に対して引き続き鮮明な映像を配信するとともに、災対本部運営等にも活用することができます。
------	------	--------	---

成果指標	指標名	防災カメラ機器更新率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	更新が完了したカメラ/全22箇所		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	長期計画に沿って計画的に更新することとしているため	%	0	9.1	18.1	27.2	36.4

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	市ホームページ等を通じてカメラ映像・画像を公開しており、地域住民が避難行動を検討するための状況確認ツールとして大きな役割を担っています。また、市内のリアルタイムな状況把握が可能のため、災対本部運営に役立てることができています。				

事業の問題・課題	市場の影響等による委託費の高騰や必要部品等の納入に要する期間等に悪影響を受ける可能性があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 16	防災危機管理課

事務事業名	防災用備蓄品購入事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備
	施策の課題(事務事業の実施目的)	大規模災害が発生した際、支援物資が届くまでの間の避難者が最低限必要とする主食、飲料水を中心に計画的に備蓄を行います。	
	関連施策名(施策コード)	-	

事業内容(経緯)	令和6年度は、主食(アルファ化米、パン)、飲料水等の賞味期限がある品目を中心に、計画的な備蓄を行いました。南海トラフ地震に伴う被害想定より、約14,000名の避難者等の3日分の物資が必要と考えています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	備蓄数(主食)	アルファ化米・レトルトパウチ・パン等	食	31,542	43,662	45,340	55,310	57,260
②	備蓄数(飲料水)	ペットボトル保存水	ℓ	24,294	29,928	32,268	38,268	44,268
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	避難者1名分の1日あたり備蓄(主食・飲料水)費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費÷55,000人				
	4,833	4,851	内容	財源	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			-				-	0.1	0.1	0.1	

事業対象	臼杵市民	今年度の成果	備蓄品の購入は臼杵市備蓄計画に沿って、アルファ化米などを中心に11,000食を購入することができました。これにより約1,200名分の食料が確保されたこととなります。
------	------	--------	--

成果指標	指標名	目標備蓄数に対する達成状況	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	目標備蓄数に対する主食の備蓄数割合(主食の備蓄数/目標備蓄数)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	主食55,000食	%	57.00	79.00	82.00	100.56	104.11

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	令和6年度も賞味期限の長い商品を選定するようしており、賞味期限切れによる入れ替えで生じる購入・管理等の更新作業の軽減を図っています。	

事業の問題・課題	賞味期限のある備蓄用品については、備蓄品の有効活用(賞味期限間近になった品目の配布等)を行うとともに、限られた予算の中で備蓄品充足率100%維持のために計画的に備蓄を進めていくこと、また、物資を保管するための場所を確保することが課題です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 17	防災危機管理課

事務事業名	土砂災害ハザードマップ作成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備
	施策の課題(事務事業の実施目的)	県により指定された土砂災害警戒区域の周知と災害時の対応の整理が必要です。	
	関連施策名(施策コード)	Ⅲ-7-12	自主的な防災活動及び防災教育の推進
		Ⅲ-7-13	防災に関する組織の育成・強化

事業内容(経緯)	大分県が指定する土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域をはじめ、避難所や緊急避難場所が明記された土砂災害ハザードマップを地域住民監修のもと作成しています。同マップの作成・配布により、平時においては土砂災害リスクの認識や避難経路の確認行動に、発災時にはそれを活かした的確な避難行動に繋がります。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	土砂災害ハザードマップを作成した区域数	土砂災害警戒区域	箇所	301	33	51	18	14
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1区域当たりのマップ作成経費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	委託費/マップ作成区域数(千円)				
	1,078	1,056	内容	委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国県補助金			6.3	33.3	25.8	60.0	75.4

事業対象	土砂災害警戒区域内の住民	今年度の成果	令和6年度末時点、大分県が指定した土砂災害警戒区域等(14区域)を含めた1,394区域が示されたハザードマップを作成し、対象世帯へ災害リスクの周知・啓発を行いました。
------	--------------	--------	---

成果指標	指標名	土砂災害警戒区域を示したハザードマップの作成率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	作成した図面/土砂災害警戒区域(年度毎)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	最新データのハザードマップ		100	100	100	100	100

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	新たに指定される土砂災害警戒区域のハザードマップ作成作業において住民が参画することができるため、地域住民の災害リスクの認識と防災意識の向上に繋がっています。	

事業の問題・課題	土砂災害区域等の指定数については令和3年度以降大幅に減少しており、1マップあたりの作成単価としては上昇しています。大分県が行う区域指定の方針や市が行うマップ作成等のタイミングなどについて、大分県を含め協議・検討する必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
A - 18	市民生活推進課

事務事業名	吉四六まつり補助事業	新規・継続・単年	単年
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出
	施策の課題(事務事業の実施目的)	実施主体の高齢化、担い手不足	
	関連施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承

事業内容(経緯)	野津町商工会員を中心とした実行委員会が主催する「吉四六まつり」に対する補助事業です。地域住民主導による、野津町を代表するイベントとして定着しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	全種目に対する伝統芸能の演目割合	伝統芸能の演目/全項目/100	%	中止	中止	56	56	65
②	市職員の動員数	当日の職員動員数	人	中止	中止	12	12	17
③								
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	補助金額				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	吉四六まつり実行委員会への補助金額(1催事)			
	4,100	4,100	内容	ふるさとづくり事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			中止	中止	273.3	205.0	205.0

事業対象	市民及び市外からの来場者	今年度の成果	当日は20,000人程が来場し、神楽・獅子舞・太鼓などをステージで披露し、地元の伝統芸能の継承や地域の活性化に繋がっています。
------	--------------	--------	---

成果指標	指標名	来場者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	イベント来場者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	市内外からの来客により地域の活性化が図られます。		人	中止	中止	15,000	20,000

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	野津地域を代表する春の一大イベントとして定着しています。地域の伝統芸能を積極的に取り入れることで、地域文化の継承や活性化に繋がっています。				

事業の問題・課題	事業実施団体の高齢化が進む中、野津地域を代表するイベントとして継続していくために関係団体との連携を強化します。
----------	---

課長評価	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上